

英語

(12) 英語

| 観 点 | 着 眼 点 |
|-----------------------------|--|
| 1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫 | (1) 英語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、目的や場面、状況などを意識して活動を行うなど主体的・対話的で深い学びの実現を図る工夫 (2) 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を高め、言語能力の育成や論理的思考力を育成するための工夫 (3) 視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、学習活動の充実を図るための工夫 (4) 児童が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫 (5) 家庭や地域社会と連携した学習を実施するための工夫 (6) 児童の興味・関心に合った言語活動の題材の工夫 (7) 他の教科等や学校行事等との関連、中学校との接続を図った学習活動を充実するための工夫 |
| 2 使用上の便宜 | (1) 内容別配当の分量 (2) 教材・資料等の分量 (3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫 等 |
| 3 その他 | ・今日的課題への配慮 |

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

| 発行者の 番号・略称 | 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫 | |
|---------------|--|--|
| 2 東書 | <p>●着眼点(1)について 登場人物の成長ストーリーを設け、友だちへのプレゼントカード、観光案内等、目的、状況を伴った場面が設定され、児童がその場面に適した表現を理解し、身に付けられるよう工夫されている。単元末の目標達成に向け、4技能5領域がバランスよく扱われている。また、テーマごとに学習を振り返る発表の場、思考ツールの掲載等があり、全体を通じて主体的・対話的で深い学びの実現が図られるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(2)について 各UNITの「Your Turn」では、重要表現のやり取りができるよう構成され、「Enjoy Communication」では、実際の場面を想像しながらコミュニケーションを楽しむこと、「Over the Horizon」では言葉の背景にある文化を知ること、「Sounds and Letters」では、段階を踏んで文字を学習することができるなど、言語能力や論理的思考力の育成を図ることができるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について 児童が学校だけでなく、家庭においても映像や音声にふれて、興味関心を高められるよう、映像や音声などのデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが教科書及び別冊に配置されている。</p> | <p>●着眼点(4)について 全てのUNITが①Starting Out ②Your Turn ③Enjoy Communication ④Over the Horizon という4つのパートで構成され、①で示された3観点とそれに続く②③④での振り返りを連動させている。また、テーマ別に振り返りを生かし、発表する活動「Check Your Steps」、別冊「CAN DO の樹」では、ゴールの姿をイメージできるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(5)について 第5学年の「Check Your Step2」の「聞いて！わたしの町じまん」や第6学年 UNIT2「家事の分担」などの活動を設け、家庭や地域・社会と連携を図ることができるよう工夫されている。 〔例〕5年 (P72～73) 6年 (P19)</p> <p>●着眼点(6)について 「観光案内 CM」「行きたい国の紹介」等、児童の日常生活や学校生活に関する場面が取りあげられ、学習の参考となるよう別冊「My Picture Dictionary」には世界や日本の地図や観光地、名物などの資料が掲載されるなど、児童の興味・関心にあった言語活動の題材となるよう工夫されている。 〔例〕5年 (P67) 6年 (P43)</p> <p>●着眼点(7)について 5年生UNIT6では、家庭科、算数科との関連した活動、UNIT7では社会科に関連した活動等、他教科と関連した学習活動が行えるよう工夫されている。また、他教科との関連があることがわかるようマークが付されている。中学校での学習内容を想起させる巻頭「Going to Junior High School」や「Try it!」が掲載されている。 〔例〕5年 (P7～83) 6年 (P60～67)</p> |

| 発行者の 番号・略称 | 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫 | |
|---------------|--|--|
| 9 開隆堂 | <p>●着眼点(1)について 児童にとって身近な場面設定がされており、「Activity 1、2」では小グループで自分の考えや気持ちを伝える活動、「Activity 3」では単元のまとめの言語活動を行うことができるなど、児童が見通しをもって取り組み、振り返りができる工夫により、全体を通じて主体的・対話的で深い学びの実現を図る工夫がなされている。</p> <p>●着眼点(2)について 各 Lesson 「Let's watch and Think」から始め、「やり取り」を行う「Follow up」やチャンツ・歌等で言語材料に慣れ親しむ「Let's play」は児童が自然と表現活動を行えるよう工夫されている。また、「Activity 1、2」「Activity 3」で言語活動にスモールステップで取り組めるようになっており、さらに「Let's listen and Read」「Let's write」は英語を使って読んだり、書いたりすることができるような構成とするなど、言語能力や論理的思考の育成を図るよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について 音声や動画など学習に効果的なコンテンツが活用できるようページの右上に二次元コードが配置されている。また、表現活動の充実に向け、発音を確かめることができるよう、別冊の「Word Book」にも二次元コードが配置されている。</p> | <p>●着眼点(4)について 目次のページに、Lesson ごとの Goal が記載されるとともに、巻末に「CAN-DO チェック」が提示され、1年間で学習する内容が示されている。また、「Let's check 先生と話をしよう。」では、「ふりかえりをしよう」の欄が設けられ、児童が目標を確認しながら学習を進め、振り返りができるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(5)について 随所に地域的な話題を取り上げることで、児童が自分の住んでいる地域について考えるきっかけとなるよう工夫されている。第5学年「町のすてきなところ」の発表では、自分たちの町について紹介したり、ポスターを作ったりする活動が設定されている。 〔例〕5年 (P86～P95)</p> <p>●着眼点(6)について 世界に発信できる日本の情報や世界の珍しいスポーツ等をはじめ、第5学年では「クラスのスペシャルカレンダーの作成」「プロフィールカードを作ろう」、第6学年では、「日本の良いところを伝えよう」「理想の日曜日のスケジュール」等、児童の興味・関心を高められるような題材が掲載されている。 〔例〕5年 (P24～P33) 6年 (P34～P43)</p> <p>●着眼点(7)について 社会科における地理や世界の諸地域との関連、家庭科における食品と栄養素との関連など、教科横断的な学習ができるよう工夫されている。学校行事と関連し、小学校生活の思い出について発表できるよう構成されている。また、別冊「Word Book」では、小学校及び中学校でよく使用される語句に★マークが付され、中学校の学習と関連付けられている。 〔例〕5年 (P63) (P79)</p> |

| 発行者の 番号・略称 | 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫 | |
|---|---|---|
| <p style="text-align: center;">15 三省堂</p> | <p>●着眼点(1)について 各 UNIT は、その単元で学習する内容を確認することができる「HOP」、語句や表現を学習する「SETP」、学習したことを発表する「JUMP」から構成されている。また、児童が学習した内容等を記入できる、振り返りのコーナーが設けられるとともに、イラストを活用し言語活動に取り組めるような「Try」のコーナーもあり、全体を通じて主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(2)について 2～3つの Lesson で1 UNIT が構成されている。各 Lesson とも共通のテーマを学び、UNIT の最後は、「Try」として学習内容をもとにした言語活動が設定されている。UNIT の始まりである「HOP」では、学ぶ内容や UNIT の終わりに目指す姿を映像で確認できるよう工夫されている。各 Lesson は「STEP」として構成され、リスニングから始まり、ペアワークやグループワーク等の活動へと展開する。これらを通じて言語能力や論理的思考力の育成が図られるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について 音声教材や視覚教材を使った活動を充実することができるデジタルコンテンツにアクセスできる、二次元コードが教科書及び別冊の右上に配置されている。</p> | <p>●着眼点(4)について 大単元の構成は、「HOP」「STEP」「JUMP」で構成され、Lesson ごとの Goal は、章末「JUMP」の言語活動の目標に向け、スモールステップで構成されている。「JUMP」では自らの達成度を振り返るコーナーがある。別冊に学年別の5領域別 CAN-DO リストが掲載され、児童が達成目標を描きながら学習を進めることができるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(5)について 第5学年では、「友だちや家族を紹介し合おう」「おすすめの世界とそこでできることを伝え合おう」、第6学年では、「日本の行事や地域の施設・自然について伝え合おう」「住んでいる地域の紹介をしよう」の題材を通して、家庭や地域と連携した学習となるよう工夫されている。 〔例〕 5年 (P42～49) 6年 (P22～P31)</p> <p>●着眼点(6)について 第5学年の「自分のこと」、第6学年の「将来のこと」等で、児童の身の回りの日常生活に関するもの、日本の伝統文化及び他の国の文化等、生活に関連したものが多く取り上げられ、児童の興味・関心に合った言語活動の題材が工夫されている。 〔例〕 5年 (P82～P93) 6年 (P80～108)</p> <p>●着眼点(7)について 世界地図、観光名所、国旗など社会科に関連する題材、「世界のスポーツ」では体育と関連する題材等、他教科との関連が扱われている。「思い出を伝えよう」では学校行事に関連する題材が設定されている。日本語と英語を比べて、音声の違い気づかせる活動やミニ情報を掲載し、中学校の英語の学びにつながるよう工夫されている。 〔例〕 5年 (P94～101) 6年 (P64～75)</p> |

| 発行者の 番号・略称 | 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫 | |
|---------------|--|--|
| 17 教出 | <p>●着眼点(1)について 見る、聞く、歌う等の慣れ親しむ活動から、話す(やり取り、発表)等の各活動へとつながるよう工夫されている。児童にとって身近な学校生活に関するテーマや活動を取り上げ、「Let's Think」のコーナーで、学習する内容について、気づきや思考を促す問いが設定され、児童が思考しやすいよう工夫されている。やり取りや発表がしやすいようイラストやマップ等で示され、全体を通じて主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(2)について 「Let's watch」(映像を見る)から始まり、5つのスモールステップで学ぶ構成となっている。学校生活にあったテーマで、コミュニケーションを通じて、インプットからアウトプットへつながるよう工夫されている。また、Lessonの終わりには、音声と文字のコーナーが設けられ、文字に慣れ親しむことができるようになっており、言語能力や論理的思考力の育成を図られるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について 表現学習活動の充実に向け、学習内容に関する映像を見たり、音声を聞いたりすることができるとともに、単元導入の映像の視聴、表現活動のモデル動画、単元の最終発信活動などにアクセスすることができる二次元コードが配置されている。</p> | <p>●着眼点(4)について 児童が学習の見通しをもって学べるよう、各 lesson の始めに、キャラクターが目標を明示し、各 lesson の終わりに、目標に関連したやり取りや発表ができるよう構成されており、児童が達成度を確認できるよう工夫されている。巻末のワークシートでは、各 Lesson の「Final Activity」で振り返りができ、児童が達成度を確認できるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(5)について 第5学年では、各地の名所や名物をイラストや写真等を使ってやり取りを行い、地域と関わった取組を行うことができるよう工夫されている。第6学年では、自分の住んでいる地域の紹介を通して、地域について考える活動ができるよう工夫されている。 [例] 5年 (P62～75) 6年 (P20～P29)</p> <p>●着眼点(6)について 第5学年では、「どの人と学ぶかの夢の授業を考える」「あこがれの人や友達になってみたい人の紹介をする」、第6学年では、「自分の町のおすすめの場所を書いたシート」「自分のことを書く My Book を作る」等の題材が取り上げられ、児童の興味・関心に合った言語活動となるよう工夫されている。 [例] 5年 (P33) 6年 (P26～27)</p> <p>●着眼点(7)について 第5学年では、社会科「名所・名物マップ」、家庭科「オリジナルメニューを作る」、第6学年では、学校行事クラスの「思い出アルバムを作る」という題材が扱われ、他教科や学校行事と関連した学習が行えるよう工夫されている。3・4年生の外国語活動の振り返りや、自己紹介を書く活動で中学校に向けた活動があり、連携を意識できるよう工夫されている。 [例] 5年 (P66～69) 6年 (P78～87)</p> |

| 発行者の 番号・略称 | 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫 | |
|---------------|---|--|
| 38 光村 | <p>●着眼点(1)について 各学年の目標設定に加え、次学年の目標も設定し、見通しがもてるよう配慮されている。教科書全体を3つのパートに分け、5領域の活動を配置し、「Small Talk」「Plus One」等で既習表現を活用できるとともに、巻末の「All About Me」で1年間の学びを記録ができるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて工夫されている。</p> <p>●着眼点(2)について 各 UNIT は Hop!→Step!→Step2→Jump の順で構成され、スモールステップで学習できるよう工夫されている。また、自分の考えや気持ちを伝えられるよう、「Small Talk」、「Plus one」、「Phrase Hunt」等で既習表現を活用できる工夫があり、基礎的な読み書きの学習に対応した、「Alphabet Time」が巻頭にまとめて掲載されるなど、言語活動や論理的思考力の育成を図るよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について 音声や映像の他、発表、やり取りのモデル映像等を視聴したり、多様な文化や価値観に触れられる世界12か国の小学生の映像を視聴したりすることができるよう、二次元コードが配置されている。また、「ICTを活用しよう」では、ICT機器を授業に生かした例が紹介されている。</p> | <p>●着眼点(4)について 巻頭に、「学年の目標(CAN-DO)」を5領域別に設定し、児童が振り返りながら学習を進められるようになっている。次学年の目標も記載され、学習全体に見通しがもてるよう工夫されている。UNITでは、「Hop!」のページには単元のゴールが示され、「Jump」のページで、児童が自らの学びを振り返ることができるコーナーがあり、自らの学びを確認できるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(5)について 第5学年では、「自分の街のみりよくを伝えるために、パンフレットを作って紹介する」活動、第6学年では、「家でしている手伝いについてたずね合う」活動等の題材があり、家庭や地域へと連携した学習となるよう工夫されている。 〔例〕5年 (P90～97) . 6年 (P32～39)</p> <p>●着眼点(6)について 世界の小学生が登場する「Let's watch and think」では、自分の考えを話す同年代の姿があり、児童の学習意欲を高めるよう工夫されている。「誰もが住みやすい町を考えて、『理想の町』を案内し合う」「英語のトーク番組にちょうせんしよう」等の題材で、児童にとって興味をもちやすい言語活動の題材となるよう工夫されている。 〔例〕5年 (P68～75) 6年 (P70～73)</p> <p>●着眼点(7)について 「言葉について考えよう」のコーナーでは国語科、「動物の気持ちを伝えるポスター」では理科等、他教科で学んだことを学習内容としている活動が掲載されている。学校行事と関連した活動や、3～4年生の復習のページ、中学校の学習を知ることができるコーナーもあり、他教科、他学年、中学校と連携した学習が行えるよう工夫されている。 〔例〕5年 (P66～67) 6年 (P52～59)</p> |

| 発行者の 番号・略称 | 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫 | |
|---|--|--|
| <p style="text-align: center;">61 啓林館</p> | <p>●着眼点(1)について Unit 扉では、導入と学習の動機づけ、「Step 1、2」では、表現に慣れ親しむ活動等、「Step 3」では、既習事項を発展させる活動、「Look Back」では、学習内容の振り返りがある。また、相手に伝わる工夫を考えたり、異文化にふれたりするコーナーや巻末の「Can-Do List」の掲載等があり、全体を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて工夫されている。</p> <p>●着眼点(2)について UNITの扉や「Words and Phrases」で、言語材料の意味や使用場面を推測し、「Jingle」や「Chant」で定着させ、「Activity」ではやり取りを行い、簡単な表現を学習できるよう工夫されている。「Watch and Do」で繰り返し表現にふれて文字を学び、Acitivityでは、事前に準備した内容をブラッシュアップし、コミュニケーション活動できるなど、言語活動や論理的思考力の育成を図るよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(3)について 言語材料の使用場面や状況、GOALをイメージした参考映像や Jingle、Chant、アルファベット、単語クイズ、Activity のヒント、コミュニケーション時のツールとしてタブレットを活用した学習活動の映像などのデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが配置されている。</p> | <p>●着眼点(4)について UNIT 扉では、UNIT のゴールおよび各 Step の「めあて」があり、学習の見通しが立てられるようになっている。UNIT 末の「Look Back」では、学んだことが日常のどのような場面で活用できるかを考えることができるよう工夫されている。巻末の「CAN-DO List」には、各学年の目標を UNIT ごとに4技能5領域で掲載し、学習したことを振りかえることができるよう工夫されている。</p> <p>●着眼点(5) 第5学年では、「身近な人について、自分との関係やとくちょうを言ってみよう」、第6学年では、「自分の住む地域をより良くするためのアイデアを発表しよう」が設定され、家族のことや自分の住む地域への関心を促す題材が設定されている。 〔例〕 5年 (P58) 6年 (P42)</p> <p>●着眼点(6) 「夢の1日の時間割」「友だちへのバースデーカード」「中学生へのお礼の動画メッセージ」など、児童の身近な場面や、身近な人とのやり取りを中心とした場面等、児童の興味・関心に沿った言語活動の題材が取り入れられている。 〔例〕 5年 (P18～19) 6年 (P98～99)</p> <p>●着眼点(7) 「ユニバーサルデザイン」等では社会科、「世界のメニュー」では家庭科などの他教科との関連が図られたり、「思い出の学校行事」では学校行事との関連も図られている。「Pre Unit」では3・4年生の学習の振り返りがあり、中学校に向けて英語で読む力を養う活動がある等、他学年、他校種との連携が意識されている。 〔例〕 5年 (P66～77) 6年 (P70～81)</p> |

2 使用上の便宜

| 項目 発行者の 番号・略称 | | 総 ページ | (1) 内容別配当の分量 | | | | | | (2) 教材・資料等の分量 | | | | | | | | | |
|---------------------|----|----------|----------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|---------------|---------------------------|---------------------|-------------|-------------|-------------------------------------|-------------------------------------|--|----------------------------------|--|
| | | | 本課 (UNIT のみ) 【ページ 数】 | その他 (UNIT 以外) 【ページ 数】 | その他 (文字 に関わ る) 【ページ 数】 | 単語の ページ (本冊) 【ページ 数】 | 単語の ページ (別冊) 【ページ 数】 | 付録(紙 の質を参 考に) 【ページ 数】 | 活動 | | | | | 本冊の2 次元コー ド(QR コード) 【数】 | 別冊の2 次元コー ド(QR コード) 【数】 | 「CAN-DO リスト」 「CAN- DO」 【振 り返り】 (数) | 三重県に 関する記 述等 (ページ 数) | |
| | | | | | | | | | 聞くこと (数) | 話すこと (やり取 り) (数) | 話すこと (発表) (数) | 読むこと (数) | 書くこと (数) | | | | | |
| 2 東書 | 5年 | 94 | 64 | 12 | 18 | △ | 48 | 8 | 98 | 68 | 6 | 13 | 55 | 76 | 57 | 26 | 0 | |
| | 6年 | 96 | 64 | 18 | 14 | △ | 48 | 8 | 105 | 51 | 10 | 43 | 52 | 74 | 57 | 26 | 1 | |
| 9 開隆堂 | 5年 | 150 | 68 | 40 | 19 | △ | 33 | 9 | 83 | 41 | 6 | 31 | 29 | 57 | 51 | 9 | 1 | |
| | 6年 | 148 | 68 | 43 | 16 | △ | 33 | 4 | 77 | 27 | 16 | 29 | 26 | 57 | 53 | 9 | 0 | |
| 15 三省堂 | 5年 | 100 | 76 | 24 | 12 | △ | 30 | 8 | 59 | 45 | 25 | 31 | 23 | 54 | 65 | 12 | 1 | |
| | 6年 | 105 | 76 | 29 | 7 | △ | 30 | 6 | 60 | 45 | 26 | 31 | 24 | 55 | 65 | 12 | 0 | |
| 17 教出 | 5年 | 108 | 74 | 12 | 25 | 5 | △ | 17 | 35 | 15 | 7 | 14 | 23 | 74 | △ | 12 | 0 | |
| | 6年 | 86 | 65 | 15 | 22 | 6 | △ | 26 | 51 | 25 | 5 | 5 | 18 | 53 | △ | 16 | 0 | |
| 38 光村 | 5年 | 110 | 64 | 33 | 14 | △ | 25 | 12 | 70 | 20 | 11 | 26 | 21 | 54 | 30 | 13 | 0 | |
| | 6年 | 110 | 64 | 36 | 11 | △ | 25 | 1 | 63 | 20 | 15 | 29 | 27 | 50 | 25 | 13 | 0 | |
| 61 啓林館 | 5年 | 138 | 74 | 25 | 12 | 21 | △ | 18 | 99 | 30 | 18 | 17 | 13 | 128 | △ | 10 | 0 | |
| | 6年 | 142 | 74 | 28 | 8 | 22 | △ | 18 | 99 | 24 | 26 | 17 | 31 | 131 | △ | 10 | 0 | |

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童への配慮、編集上の工夫等

| | |
|--------|--|
| 2 東書 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書はA4判で、再生紙と、植物油インキが使用されている。別冊の絵辞書『My Picture Dictionary』は2年間使い続けられるよう構成されている。 読み書き指導の初期段階において、4線のモデル字を左利きの児童にも見やすいよう右側に配置されている。 英語の文字認識のつまずきに配慮した独自のUDフォントが使用されるとともに、なぞり書き用の書体も使用されている。 配色およびデザインについて、専門家による検証を行い、視覚や色覚に配慮したものが採用されている。 特別支援教育の研究者の校閲を受け、学習の流れをできるだけ整え、各活動を紙面の定位置に配置するよう工夫されている。 |
| 9 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書はA4判で、環境に配慮した用紙やインキを使用している。言語材料をまとめた『Word Book』は各学年ごとに別冊になっている。 文字学習の初期段階であることを踏まえ、大きい文字を配置し、本文の日本語にはUDフォントが使用されている。また、なぞり書きや書く手本に適した視認性である独自の欧文フォントが使用されている。 専門家の校閲のもと、配色や文字の大きさについて、カラーユニバーサルデザインに配慮するよう工夫されている。 全単元を8時間配当とし、各単元の学習の流れの明確化できるよう工夫されている。 |
| 15 三省堂 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書はA4判で、環境に配慮した紙と植物油インキが使用されている。別冊の絵辞典『My Dictionary』は2年間使用できるよう構成されている。 書き込み欄での記入をしやすいよう4線の幅を十分に取っている。ユニバーサルデザインに配慮したフォントを使用し、書く活動においては、独自の専用書き文字フォントが使用されている。 専門家の校閲を受け、カラーユニバーサルデザインに配慮した補助的な手がかりが設けられている。 学習要素を定位置にし、ねらいが明確な紙面構成、わかりやすい活動の内容・指示文について配慮されている。 |
| 17 教出 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書はA4判で、再生紙と植物油インキが使用されている。また、表紙には、抗菌加工が施されている。 4線の上下幅の比率は、4:5:4とし、書く練習をしやすいよう工夫されている。 書くときのアルファベットに近い形状の書体を使用し、日本語の書体はUDフォントが使用されている。 専門家による校閲を受け、色の組み合わせや濃淡の工夫、また罫線や記号・番号、文字の補助など、ユニバーサルデザインの観点に立って編修されている。 特別支援教育の専門家による校閲を受け、紙面構成と単元構成に配慮されている。 |
| 38 光村 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書はA4判で、環境に配慮した用紙と植物油インキが使用されている。各学年ごとに巻末に別冊として絵辞典である『Picture Dictionary』が挟み込まれている。 4線の幅に対応した、独自のアルファベットのフォントが使用されるとともに、小さい日本語の文字は、UD書体が使用されている。 カラーユニバーサルデザインの観点から、全ページ専門家による校閲を受け、形や線の種類、濃淡、地紋などで識別できるよう配慮されている。 全単元で学習全体の流れを示し、単元の構成を統一するよう工夫されている。 |
| 61 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書はA4判で、アレルギーや環境に配慮した植物油インキと再生紙が使用されている。また、軽量で丈夫な用紙が使用されている。 4線幅の比率は、5:6:5とし、日本語にも英語にも、視認性・可読性の高いUDフォントが使用されている。 専門家の検証を受け、判別しにくい配色を避け、イラストなどの視認性について配慮されている。 各単元は7時間構成で統一され、文節で改行するよう工夫されている。 |

3 その他

| 発行者の 番号・略称 | 今日的課題への配慮（デジタル教科書の一部見本について） |
|---------------|---|
| 2 東書 | <ul style="list-style-type: none"> ・画面上部にツールバー、左側中央部にナビバーが表示されている。 ・ナビメニューや閲覧設定から視覚や音声の支援や書き込みに係る機能などが選択できるよう工夫されている。 ・画面タップで各活動が大きくポップアップされ、実写とアニメーションの動画などでは、速度の調節や英文字幕の表示ができるよう工夫されている。 ・650以上のコンテンツで、児童の習熟度や興味関心に応じた学びを支援できるよう工夫されている。 |
| 9 開隆堂 | <ul style="list-style-type: none"> ・画面上を移動させることのできるツールバーが配置されている。また、画面右下にはナビボタンが表示されている。 ・ツールバーやナビメニューから視覚や音声の支援や書き込みに係る機能などが選択できるよう工夫されている。 ・アイコンタップで別タブが立ち上がり、複数のコンテンツを同時に開くことができる。アニメーション動画などでは、速度の調節ができるよう工夫されている。 ・音声や映像などのデジタルコンテンツで、個別学習などの学びのスタイルに対応するように工夫されている。 |
| 1 5 三省堂 | <ul style="list-style-type: none"> ・画面上部にツールバー、左側中央部にナビバーが表示されている。 ・ツールバーから、視覚や音声の支援や書き込みに係る機能などが選択できる。 ・二次元コードタップで別リンクが立ち上がり、アニメーション動画などを視聴できるよう工夫されている。 ・児童が個別に音声や画像、映像などのコンテンツにアクセスすることで、児童の学びにつなげることができるよう工夫されている。 |
| 1 7 教出 | <ul style="list-style-type: none"> ・画面上を移動させることのできるツールバーが配置されている。また、画面右下にはナビボタンが表示されている。 ・設定やナビから視覚の支援や書き込みに係る機能などが選択できるよう工夫されている。 ・二次元コードタップでまなびリンクにつながり、コンテンツを開くことができ、速度の調節や英文字幕の表示ができるよう工夫されている。 ・音声や動画、写真、ワークシートなどのコンテンツを活用できるよう工夫されている。 |
| 3 8 光村 | <ul style="list-style-type: none"> ・画面下側にツールバーが表示されている。フリック操作で次ページへ移動可能。左下にナビボタンが表示されている。 ・ツールバーやナビバーから、視覚や音声の支援や書き込みに係る機能などが選択できる。 ・「ほんぶん検索」機能で各活動がポップアップされる。アイコンをタップすると、まなビューアにつながり、実写とアニメーションなどの動画を視聴できる。 ・アニメーションや映像、音声などのコンテンツを活用できることで、児童がさらに興味・関心をもって学習できるよう工夫されている。 |
| 6 1 啓林館 | <ul style="list-style-type: none"> ・画面上を移動させることのできるツールバーが配置されている。また、画面左下にはナビボタンが表示されている。 ・ツールバーから、視覚や音声の支援や書き込みに係る機能などが選択できるよう工夫されている。 ・アイコンのタップで各活動が大きくポップアップされる。実写とアニメーション動画などでは、速度を調節できるよう工夫されている。 ・教科書の各活動の音声や映像などのコンテンツは繰り返し学習ができるよう工夫されている。 |